

# 大興グループ、IT強化

## システム開発や企業支援

機械設計や翻訳、人材派遣を手掛ける大興グループ(広島市中区)は、IT関連事業を強化する。システム開発の新社を設立。関連事業の売り上げを今後3年で倍増させる考え。技術者を確保するため、就職難の韓国の若者を育成し、社員として採用する。

グループの持ち株会社の大興(同)からIT関連の2部署を切り離し、7月に新社の「ダイコーIWS(同)」を設立した。さまざまな機器をネットワークでつなぐ「モノのインターネット(IoT)」や人工知能(AI)の普及で需要が高まるとみて、システム開発や企業向けの技術支援に

力を入れる。

業界ではIT技術者の不足が課題になっている。同社は独自に養成するため、韓国の大学や専門学校と連携。プログラミングや日本のビジネスマナーを韓国の若者たちに教え、順次社員

に採用する。日本の若者や定年退職者も積極的に採用する。来年6月までに韓国80人を含む120人を新たに受け入れ、計180人体制を目指す。

現在、年約5億円の関連事業の売り上げは、202

0年6月期に10億円に伸ばす目標を掲げる。

大興グループは、大手メーカーなどから機械設計や製品の取扱説明書作りを請け負う事業を主力としている。IT分野で知名度を高め、既存事業の受注拡大も狙う。ダイコーIWSの山田茂之社長は「社員を財産にして成長し、存在感を高める」と話している。

(村上和生)

※この記事は中国新聞社の許諾を得ています